8　点検と調整

⚠ 危　険

●運転中の保守・点検においては回転体（シャフト等）へは、絶対に接触しないでください。巻き込まれ、人身事故のおそれがあります。
●運転中に内部点検用カバーは取り外さないでください。高温の潤滑油が飛散し、やけどのおそれがあります。
●停止時の歯面状況の点検の場合は、駆動機・被動機の回転止めを確実に行ってください。歯車噛合部への巻き込まれ、人身事故のおそれがあります。
●停止時の製品の内部に立ち入って点検する場合には、駆動機・被動機の回転止めを確実に行いかつ製品内部が充分に冷却されてから、常に内部の換気を行いながら、施工せねばなりません。
さらに点検作業中には、外部に安全確認の要員を配置し、作業者との安全確認を常に行うようにしてください。また、製品内部は潤滑油で滑りやすい状態であることを充分認識し、確実な安全策を講じてください。人身事故のおそれがあります。
●点検時に取り外した安全カバー等を外したままで運転しないでください。巻き込まれ、けがのおそれがあります。

（ブレーキ部の点検・保守）
●手動解放レバーでブレーキを解放したまま運転しないでください。落下、暴走事故のおそれがあります。
●本運転をする前に電源を入、切してブレーキ動作確認をしてください。落下、暴走事故のおそれがあります。
●ギャップの点検、調整後、ファンカバー（ブレーキカバー）を外したまま運転しないでください。巻き込まれ、けがのおそれがあります。
●昇降用にご使用の場合は、負荷を吊り上げた状態でブレーキの解放操作をしないでください。落下事故のおそれがあります。

⚠ 注　意

●絶縁抵抗測定の際は、端子に触れないでください。感電のおそれがあります。
●ギアモータの表面は高温になるので、素手でさわらないでください。やけどのおそれがあります。
●防爆形モータの場合、絶縁抵抗測定の際は、周囲にガス又は蒸気の爆発性雰囲気がないことを確認してください。爆発、引火のおそれがあります。
●異常が発生した場合の診断は、取扱説明書に基づいて実施してください。異常の原因を究明し対策処置を施すまでは絶対に運転しないでください。
●修理、分解、組立は、必ず専門家が行ってください。感電、けが、火災等のおそれがあります。

[注] お客様にて保守・点検を目的としてグリース・オイルシール・Oリングの交換が必要な場合は取扱説明書の最終ページに記載してある最寄の営業所もしくはCSセンターお客様技術相談デスクにお問い合わせください。ただし、お客様での交換に起因する不具合は弊社保証範囲外となります。ご了承願います。

1 日常点検　2〜3日ごとに点検してください。

点検項目	方　法	点検内容
負荷電流	電流計	銘板記載の定格電流以内であること
騒　音	聴　感	異常音（ガタゴト音、周期音）がないこと
	聴音棒	軸受部聴音棒を使用すると異常音がわかり易い
振　動	触　感	ギアケース、モータフレームの異常振動がないこと
表面温度	温度計	80℃以下のこと
グリース漏れ	目　視	ケース、オイルシール、ブラケット等の接合部から漏れていないこと

2 定期点検（8時間／日運転を想定します）

点検項目		点検目安	点検内容
据え付けボルト		半　年	スパナでゆるみ確認　ゆるみは増し締め
チェーン及びVベルト		半　年	張り具合（ゆるみ、張りすぎ）の確認 ゆるみ、張りすぎは調整してください
モータの絶縁抵抗		半　年	絶縁抵抗器で500Vの時1MΩ以上のこと
ブレーキ	ギャップ量	1年または ブレーキ使用回数 100〜150万回	適正ギャップ範囲か確認 調整はP25〜26を参照して行ってください
	摩擦板の厚さ	1　年	摩擦板の厚さを確認 1.5mm以下の時は交換又は専門工場で修理してください

点検にて異常が認められた場合は、「故障の原因と対策」P28を参照して対策処置を行ってください。

3 ブレーキギャップの調整方法

⚠ 危　険

1　ギャップ調整時は、必ず電源を切って行ってください。けがの恐れがあります。
2　ギャップの点検、調整後は、本運転する前に電源を入、切してブレーキの動作を確認してください。落下、暴走事故のおそれがあります。
3　点検、調整後は、ファンカバーを外したままモータを運転しないでください。巻き込まれ、けがのおそれがあります。

(1)　ブレーキ付ギアモータのブレーキギャップの調整方法

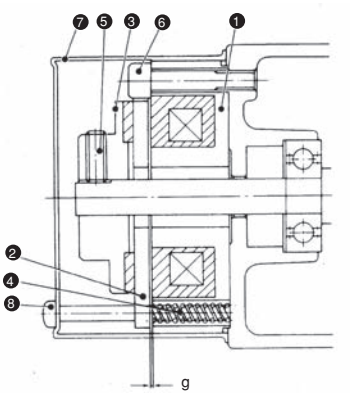
ブレーキを長時間使用いたしますと、摩擦板が摩耗しギャップ〔g〕が徐々に大きくなります。ギャップ〔g〕が吸引可能ギャップより広がりますと、マグネットを励磁してもアーマチュアの吸引が困難となりブレーキの解放ができなくなります。

その後も使用し続けますと、ブレーキが効いたままモータを回すことになりますので、ブレーキやモータの異常発熱を起こしブレーキモータの機能を低下させます。本機を安全に使用していただくために定期的（約１年毎又はブレーキ使用回数100～150万回毎）にギャップの点検又は調整を行ってください。

■ギャップの調整方法（モータ容量呼称　T50・T50W）

●減速比1/240以下の場合

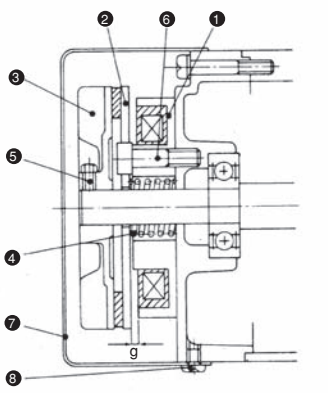
①ブレーキカバーを取りはずします。
②六角穴付止メネジをゆるめ、マサツディスククミをはずします。
③フィールドとアーマチュアの間に0.2～0.3mmの板をはさみマサツディスククミを押し込みます。
④六角穴付止メネジにゆるみ止めを塗布して締め込みます。
⑤0.2～0.3mmの板をはずします。



❶ フィールド
❷ アーマチュア
❸ マサツディスククミ
❹ スプリング
❺ 六角穴付止メネジ
❻ 六角穴付ボルト
❼ ブレーキカバー
❽ ブレーキカバー固定ネジ
g：ギャップ

●減速比1/300以上の場合

①ファンカバーを取りはずします。
②十字穴付六角ボルトをゆるめ、ファン組をはずします。
③フィールドとアーマチュアの間に0.4～0.5mmの板をはさみファン組を押し込みます。
④十字穴付六角ボルトにゆるみ止めを塗布して締め込みます。
⑤0.4～0.5mmの板をはずします。



❶ フィールド
❷ アーマチュア
❸ ファン組
❹ スプリング
❺ 十字穴付六角ボルト
❻ 六角穴付ボルト
❼ ファンカバー
❽ ファンカバー固定ネジ
g：ギャップ

モータ容量呼称		吸引可能ギャップ	適正ギャップ
三相	単相		
T50・T50W減速比 1/240以下	—	g:0.5以下	g:0.2±0.1
T50・T50W減速比 1/300以上	—	g:0.8以下	g:0.4±0.1